



白建水第 122 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

長野県白馬村長 太 田 紘



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

国道企第 37 号（平成 20 年 9 月 19 日）で依頼のありました件につきまして、
別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

長野県白馬村

○ 道路特定財源について

政府は道路特定財源を一般財源化することを決定した。しかし、地方では多くの道路整備が必要であり、そのためには建設費用が安定的に生み出されることが必要となる。「建設業者のための道路整備」等といった意見が、マスコミや一部政党から出されているが、地方に住む我々から言えば、それは議論のすり替えであり、必要かどうかという議論とは違っている。また、国では「地方の活性化」を盛んに唱えているが、活性化を図る上で重要な大きな要素の一つが道路整備である。一般財源化は「地方の活性化」と矛盾しており、一般財源化すべきではない。

○ 高規格道路について

道路構造要件の緩和は、建設費が安く済むなど早期の完成が望めると思うが、通過する地域が本来に必要なとしていて道路となりえるか疑問である。地域の要望は、道路の建設による企業誘致、物流面での地域の活性化にあると思う。

高規格道路の建設は、新たな産業の創出、雇用機会の増加、新たな観光ルート化など、人口減少に悩む地方にとっては、地域の活性化の切り札となりえる道路であるので、更なる建設をお願いしたい。なお、活性化を実現するためには、地方の創意工夫と努力が必要なのは承知している。

○ 道路融雪事業について

国道等の幹線道路には営業施設が多く、隣接する土地は駐車場などに利用され、除雪の際の排雪場所の確保に困難をきたしている実情である。しかし、現在の雪寒地域道路の採択基準は、人家連たん地域となっており、駐車場は堆雪スペースと考えられているようである。豪雪地帯の土地利用状況を加味した事業採択をお願いしたい。

○ 現状 当村は、スキーを中心とした観光を基幹産業とした村である。観光の発展と高速交通網の発達により、減少していた人口が昭和40年代後半より増加に転じた。しかし、1990年代のバブルの崩壊により観光客の減少が続ぎ、増加していた人口も平成17年より減少している。 道路事情は、高速交通網の豊科IC、長野IC、糸魚川ICのちやうど中間点にあり、それぞれ1時間の距離となっている。インターまでは市街地を通過しているため、渋滞なども多発している。 国道148号は、沿道の土地利用が進み堆雪場所に支障が出ており、沿道地域からは無散水消雪施設の設置や、歩道設置などに、強い要望が出されている。 国道406号は地すべり等の脆弱な地域にあるとともに、沿道の小集落と村中心部を結ぶ唯一の道路であり、災害時の非難ルートとして改良を強く要望されている。 県道白馬美麻線は、当村と長野市（長野IC）を結ぶ当村としては幹線道路であるが、集落に面した約1km間に歩道がなく、また前後の改良区間より構造要件が劣っている。近年大型車両が激増したため、歩者にとっては危険な道路となっているとともに、事故も多発している。 生活道路としての集落内村道の改良舗装に対しては、地域住民の要望はたくさんあるが、なかなか答えられないでいる。	○課題 平成10年の長野オリンピックを契機に行なわれた国・県道整備により、本村を通過する交通量が増大し、特に大型車の通行量が激増している。 本村から高度先進医療（特に脳疾患系の病気）に対応できる中核的医療機関までは60分以上の時間が必要だが、本村を縦断する唯一の幹線道路である国道148号は、糸魚川～静岡構造線の極めて脆弱な地質上にあり、災害に対して弱い面があるとともに、冬季節は交通渋滞に悩まされ、救急時の対応に住民は不安を抱いている。 また当地域では、採算性の面から公共交通網が発達できないため、一家に数台（免許所有者で1台）の自家用車を所有し、生活にはなくてはならないものとなっているが、生活道路（幅員4m程度）に狭隘な未舗装な村道も多いが、緊縮財政を強いられおり、その整備財源の捻出に苦慮している。
--	---

地域高規格道路、スキー場連絡道路などが完成したことにより、村の観光振興対策、活性化対策も成功し、かげりの見えた観光に活気が戻るとともに、新たな産業の創出などにより、村外に働き場を求めた若者も村内に働き場が増えたため、人口の減少に歯止めをかかり、村には元気な子供があふれるようになった。

活気の戻った観光産業などに起因し、１０数年続いていた土地価格の下落傾向は上昇に転じ、村の税収も上昇していった。財源が確保できたことにより、穴ぼこだけの道路はしっかり補修され、また狭隘な未舗装な道路も改良舗装が施工され村民生活の利便性が大幅に向上した。

地域高規格道路の完成により、大型車両をはじめとする通過車両が分離され、国道沿線住民には静かな夜が再び訪れた。また、高度先進医療（特に脳疾患系の病気）に対応できる中核的医療機関までは６０分で結ばれるとともに、若者人口が増加し、不足していた消防団員の確保が図られたことにより、緊急医療や防災面が充実し、安心安全な住民生活が確保された。また歩行者は完成した歩道により安心して通行することが出来るようになった。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等

様式 ④

長野県白馬村

○ 重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・緊急医療体制の充実 ・地域活力の向上 ・良好な生活空間の形成 ・観光振興に向けて	地域高規格道路松本糸魚川連絡道路 ・スキーマ場間連絡道路（神城山麓線）	・高度先進医療（特に脳疾患系の病気）に対応できる中核的医療機関までの時間が固定し、助かる住民が増加する。 ・企業誘致の実現により、雇用の場が確保でき、人口の増加が図れる。また短期的には、倒産寸前の村内建設業者が回復する。なお、村税収入の増加が期待できる。 ・国道から通過車両が分離されることにより、騒音・交通安全面が格段に向上する。 ・スキーマ場をはじめとする観光拠点施設を連絡し、観光周遊シヤトルバスがスムーズに運行できるとともに、観光拠点間の移動時間が短縮できる。	